学校モデル【B】

ICT活用推進担当が中心になって行う「協働学習支援ツール研修」

B:校内研修Ⅱ型（講師設定型の研修）

このような教員の姿が生まれました！

■「ちょっと授業で使ってみようかな。」という教員の声が生まれました。

■「こんな使い方ができるだろうか？」と、活用方法についてアイディアを出し合う姿がありました。

■実際に使ってみたことで「こんなことはできないか？」という意欲的に取り組む姿がありました。

ICT 活用推進担当による協働学習支援ツール研修

ICT 活用推進担当が、教員対象に協働学習支援ツールの研修を行い、基本的な使い方に触れ、「授業で使ってみよう」という意識を高める。

・ICT 活用のねらい、目的を説明する。
・実際に使って、協働学習支援ツールの機能（できること、できないこと、授業で生かせそうなこと）に触れる。
・タブレットに触れ、お互いに聞き合うことができる雰囲気の中で行う。

「教員研修」のポイント

- 内容を吟味し、伝えることが多すぎないようにする（講義と実習のバランスを考える）。
- 実際に使ってみることで、お互いに試し、聞き合うことで協働学習支援ツールに慣れることを重視する。
- 授業場面を想定し、単位時間のいつ、どこで、どのように使うことができそうなのかをお互いに交流する。
- 研修終了後の感想を取り、教員の願いや困り感を捉え、今後の研修につなげる。

「協働学習支援ツール研修」を終えての感想

学んだことを今後の授業に生かす

・授業で資料（プリント）を配付することが多いので、データで生徒に配付できれば、より見やすく、効率もよくなる。
・提出したノートを生徒同士で自由に見ることができるようにすることで、仲間の考えを参考にして考察したり、まとめたりするなど、粘り強く学習することにつなげる。

今後、考えていくべきこと

・生徒から出た疑問や教師の困り感をもとに、継続的に研修を行う。
・タブレットは道具であり、課題追究における手段であって目的ではないため、単元や単位時間のどの場面で活用していくのか吟味し、効果的に活用していく。
・ノートを生徒同士で自由に見ることができるようにすることで、仲間のデータを書き換えることなどがないよう指導する。